

## 研究・調査報告書

| 報告書番号   | 担当                |
|---|-------------------|
| 375   | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学 |
| <b>題名 (原題/訳)</b>  |                   |
| Lifetime alcohol consumption and risk of Barrett's Esophagus.<br>生涯飲酒とバレット食道がんとの関連についての検討   |                   |
| <b>執筆者</b>  |                   |
| Thrifth AP, Pandeya N, Smith KJ, Mallitt KA, Green AC, Webb PM, Whiteman DC.  |                   |
| <b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>  |                   |
| Am J Gastroenterol. 2011 Jul;106(7):1220-30.  |                   |
| <b>キーワード</b>  |                   |
| 飲酒、食道がん、バレット上皮  |                   |
| <b>要 旨</b>  |                   |
| <b>目的：</b><br>アルコールは食道粘膜に直接作用しバレット食道がんのリスクを上昇する可能性があるが、アルコールとバレット食道がんのリスクを検討した研究結果は一致していない。アルコール量とアルコールの種類別にバレット食道がんとの関連を検討した。  |                   |
| <b>方法：</b><br>地域住民を対象とした症例・対照研究を行い、症例は異型性のないバレット食道がん 285 例、異型性のバレット食道がん 108 例、対照は 313 例の内視鏡検査を受けた急性炎症患者と 644 例の地域住民とした。多変量ロジスティックモデルを用いて、飲酒量別にバレット食道がんのオッズ比(OR)と 95%信頼区間(95%CI)を算出した。   |                   |
| <b>結果：</b><br>飲酒量は異型性のないバレット食道がんとも負の関連をみとめ、非飲酒者や一週間あたり 1 杯しか飲酒しない者と比較すると、一週間あたり 7 杯から 20 杯飲酒する者の OR は 0.53、95%CI は 0.31-0.91、一週間あたり 21 杯から 41 杯飲酒する者の OR は 0.37、95%CI は 0.19-0.73 であった。飲酒量は異型性を伴うバレット食道がんとも負の関連をみとめ、非飲酒者や一週間あたり 1 杯しか飲酒しない者と比較すると、一週間あたり 7 杯から 20 杯飲酒する者の OR は 0.52、95%CI は 0.19-1.43、一週間あたり 21 杯から 41 杯飲酒する者の OR は 0.22、95%CI は 0.07-0.73 であった。アルコールの種類別検討でもビールとワインは同様に食道がんとも負の関連を認め、特にビールでは直線的な関連を認めた。蒸留酒はおよぼ 2 倍のリスクであったが、統計的に有意なものではなかった。 |                   |
| <b>結論：</b><br>飲酒はバレット食道がんのリスクを上昇させておらず、ビールとワインでは飲酒量は食道がんとも負の関連を認めた。その機序については不明である。  |                   |